

Op.45-1

4つの即興曲

昇る朝陽
夜明けの閉幕

乳色の薄暮
醒めた舞台

漂流する銀粉
左傾する隊列の鳥

底の見えぬ青空
くすむ上澄み

漂流する銀粉
右傾する隊列の鳥

頬撫でる
薄暮の生地

鼓膜震わす
寒風の音

入っては

消えゆく

入っては

消えゆく

人 人 人

乳色の薄幕
固有の神隠し

沈む夕陽
醒める熱演

黒い銀幕
赫い月

下地の乳色
透け見える黄泉

今への前進

過去への前進

Op.45-2

4つの即興曲

つかの間の眠り 帰路の眠り

北風寒く また時間の内へ

足元の枯葉 現実の音触^{おんしょく}

古の眠り 情念の眠り

月明かり 街の街灯

自らの影 その源を知らず

つかの間の眠り 自我の眠り

夜空の夢 瞬かぬ星々

起床の音 脳との格闘

夜空の眠り 街々の眠り

月明かり 街の街灯

自らの影 朝も夜も知らず

Op.45-3

4つの即興曲

かつて見た夢
起きて見た夢

流れる川
跳ねる飛沫^{しぶき}
煌めく水面

流れる雲
隠れる太陽
光射す地表

忘れられた夢
寝て見る たまの夢

川の遠景
震える寒天
濁りの表面

重たい曇天
隠された太陽
靴裏の冷たさ

うたびと
詩人の見る夢
起きてみる たまの夢

Op.45-4

4つの即興曲

昇る朝陽
夜明けの閉幕

夜から夜へ
肉体の独り歩き

西の空 輝く月
東の空 茜の待機

地面の波間
呼び醒ます影

うたびと
詩人の寢床
主体の交代

自らの影
朝も夜も知らず

乳色の朝靄

社会の現実

片や眺める 乳色の朝靄

片や囁く 乳色の薄暮

詩人の微睡み

美しき寝言

つかの間の眠り 帰路の眠り

北風寒く また時間の内へ

足元の枯葉 現実の音触^{おんしょく}

底のない漆黒の夜空

果てしなき夜空の向こう

輝き震える 白銀の月

神々しい 浄化の槍

詩人の夢

眼前の 完全なる光

地面の波間

呼び起こす光

詩人の起床

主体の交代

自らの影

夜道に紛れ

自らの影

その源を知り

Op.46-1

6つのバガテル

目蓋の裏の乳白色
背中で感じる暖かさ

四季でもなく
移ろうでもなく

過去でもなく
未来でもなく

立ち止まることもなく
刹那に消える 今 今 今

目蓋の裏の濃藍色
顔肌に感じる冷やかかさ

夜でもなく
更けるでもなく

夜空でもなく
陰でもなく

余韻を残すこともなく

刹那に切り替わる 今 今 今

目蓋の裏の乳白色
背中で感じる暖かさ

四季でもなく
移ろうでもなく

過去結構でもなく
未来でもなく

立ち止まることもなく
刹那に消える 今 今 今

目蓋の裏のこいあい濃藍色
顔肌に感じる冷やかかさ

夜でもなく
更けるでもなく

夜空でもなく
陰結構でもなく

余韻を残すこともなく
刹那に切り替わる 今 今 今

目蓋の裏の乳白色

背中で感じる暖かさ

夢と現の隙間

眠気を誘う 線路の継ぎ目

Op.46-2

6つのバガテル

北の夜空の大柄杓
撒かれた水も闇に消え

地上の夜道 明かり点々
弾ける水滴 天の名残り

南の夜空の砂時計
流れる砂も闇に消え

地上の夜道 明かり点々
自らの影 ふたつ みつつ

南北の midpoint 移動 不動
詩人の言葉 還らぬ^{こだま}偲

北の夜空の大柄杓
撒かれた水も朝に消え

南の夜空の砂時計
流れる砂も朝に消え

Op.46-3

6つのバガテル

頭上の天蓋 ^{うごめ} 蠢く灰色
髪乱す 醒めた吐息
耳なぞる 乾いた笛の音^ね

凧 年末 車 車
軽やか 滑らか 軽やか

救急車 号笛 時 裂け目
静止 静止 静止 再開

頭上の天蓋 ^{みなぞこ} 見えぬ水底
^な 顔甜める ^{ぬる} 温い溜め息
額 貼り付く 薄い白膜

天蓋の下 平時 ^{はやく} 端役

天蓋の下 今や

Op.46-4

6つのバガテル

まだ夜の空 足裏 冷える路上
吹きつける北風 ^{こわば}強張る顔肌

今はまだ夜の空 点々 輝く星々

昇る朝日 色づく地平 寒い温色
電車の窓外 すり替わる画像 画像

重たく沈む街 引き上げる白日

静かに光る 路上 水の欠片

静かに消える 路上 水の黒染み

灰色の街 駆ける ハクセキレイ
光の方へ ただ光の方へ

灰色の大地 飛び立つ 灰色の小鳥
硬い足場へ 冷たい足場へ

足裏の感触

有彩の社会

無彩の

Op.46-5

6つのバガテル

季節外れ 真冬の昼間
角の取れた 丸い陽射し
凧の風波 ^{たゆ}弛む両頬

渦巻かぬ 都会の混沌
前へ後ろへ 右へ左へ 斜めへ
視界を賑わす 人の波 返す波

休日解放

異邦人

言葉降りぬ ^{うたびと}詩人

季節外れ 真冬の黄昏
電車の窓外 陰帯びる街
^{たけみつ}竹光の西陽 ^{うすはいだいだい}薄灰 橙のカクテル

薄まり消える ビル 家 家
電線 線路 アスファルト
剥き出しの大地 ^{げんしょ}源初の黄昏

休日の解放

異邦人

言葉降りる 詩人

言葉解せぬ 世界

盾と矛 微かな火花

Op.46-6

6つのバガテル

夢と現の隙間

眠気を誘う 線路の継ぎ目

夜明け 陽光

黄昏色の 朝陽

頭上の天蓋 蠢く灰色

壁 取り払われ

素顔の 異邦人

夢と現の隙間

眠気を誘う 線路の継ぎ目

耳元で しなる鞭音

単走 ハクセキレイ

耳元で ゆらぐ視界
葉隠 シジュウカラ

季節のまま 真冬の昼間
網膜刺す 鋭角の陽射し
^しけ 時化の風波 ^{こわ}強い両頬

夢と現の隙間
眠気を誘う 歪んだ真珠

夕暮れ 陽光
窓越しの 黄昏

カラスの 黒い 独奏
カラスの 黒い 多奏

通奏の カッコウ
不協の カッコウ

壁 取り払われ
磁針の乱れ 異邦

うたひと
詩人

天井の向こう

南の夜空の 砂時計